

科目名	教職論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択
担当教員	山本 裕詞		
開講期	前期		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 最初に、人間の成長に必要な「教育」について思考を深め、その上で、公的な教育機関である学校や公的資格である教員免許状の意義について考えていきます。その際、具体的な制度、仕組み、役割を確認しながら、本来の意義に立ち返って批判的に理解を深めます。後半では、近年社会問題化している教育問題について、それに対して期待されている教員の役割を確認し、それを「教育」や「学校」の本来の意義から批判的に検討します。</p>		
達成目標	<p>1) 我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 2) 教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 3) 教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 4) 学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。</p>		
受講資格	教職等に就くことを希望する者	成績評価 方法	期末試験50%、授業末に実施する小テストや課題提出物等50%の割合で総合評価。
教科書	テキストは使用しませんが、最新版の教育小六法を用意すること（例えば、『教育小六法2018年版』学陽書房）など。なお、授業中にプリント等を配布することがあるので、ファイリングしてノートと連動して活用できるようにしておくこと。		
参考書	本図愛実・末富芳編『新・教育の制度と経営[新訂版]』学事出版 2017年		
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。		
オフィスタイム	<p>月曜V限（16:10～17:40） 火曜I限（8:50～10:20） 場所：教職課程推進室（家政学館4階奥左） そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。</p>		
自学自習	<p>事前学習：シラバスの項目について、図書館やインターネット等を活用して調べ、疑問点を明らかにしておくこと（1時間） 事後学習：授業での学習内容を振り返り、ノートを補完する（1時間）</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	○オリエンテーション ○二つの教育モデル	○授業計画および評価方法の案内 ○二つの教育モデルと教師の在り方を考える
2	学校教育の機能1	○学校教育の目的 (1) 学校の種類 (2) 学校の設置者 (3) 教育行政と学校管理
3	学校教育の機能2	○教職員とその職務 (1) 教職員の職務とその内容 (2) 事務職員の職務 (3) その他
4	教員の資質と教員観	○教員に求められる資質能力 (1) 教員観と教員に求められる資質の関係 (2) 専門職としての教員
5	学校の組織と運営1	○校長および教頭、主任の職務と役割 (1) 校長 (2) 副校長、教頭 (3) 主任等
6	学校の組織と運営2	○学校の組織と運営 (1) 校務分掌による役割分担 (2) 新しい職による組織の変化
7	教諭の教育活動1	○学級担任の職務と教科指導等 (1) 学級担任の役割と学級経営 (2) 教科指導 (3) 養護教諭、栄養教諭の職務
8	教諭の教育活動2	○道徳の指導と「総合的な学習の時間」 (1) 道徳教育の実際 (2) 総合的な学習の時間
9	教諭の教育活動3	○生徒理解にもとづく指導 (1) 生徒指導の意義 (2) 進路指導の意義

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	教員の服務	○教員の一日と服務規程 (1) 勤務と休暇 (2) 服務規律
11	教員の研修	○教員の研修とその体系 (1) 教員研修の種類 (2) 教員研修の内容 (3) 免許更新制度
12	現代における学校教育の課題 1	○人権教育と学習権の保障 (1) 同和教育 (2) 特別支援教育の理念と「障がい」理解 (3) 貧困と教育機会
13	現代における学校教育の課題 2	○いじめと不登校 (1) いじめの現状と自己の認識 (2) いじめ重大事態における公教育責任 (3) 専門職間の連携・協働
14	現代における学校教育の課題 3	○学習指導要領の概要と課題 (1) 学習指導要領の歴史的変遷 (2) 新学習指導要領の目指すもの
15	授業のまとめ	○授業の総まとめ

科目名	教育原理 I		
担当教員	関川 悦雄, 山本 裕詞	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択
開講期	前期		
授業概要	<p>本授業は教職課程必修科目のうちのもっとも基本となる科目であり、受講生たちが教育の原理や理念、教育の歴史や思想に関する基本的理解を深めて教育の全体と課題を把握することを目標とする。受講生は、これまでほぼ無意識に教育を受けてきた立場から転じて、今後は人間の発達や知育や徳育の問題について教育思想や教育法制度、教育行政の理解をすることで、教育について客観的視点から学習するようになる。その場合、学校教育の在り方をとくに深く考察し、教職という職責の意義と責任について自覚を高めていく。こうして、教育に対する上記の視点の転換によって、教育の原理・本質を、歴史的考察と合わせ、国際比較の観点からも幅広く理解できるようになるであろう。</p> <p>さらに受講生は、教員として求められる実践的教養を身につけていくことが求められる。とりわけ、教育法規、教育課程、教育行政については具体的に正確に理解し、学校教育の骨格について理解を深めると同時に、教育や子どもを取り巻く時事問題へも精通するようになり、教職に対する前向きなスタンスを培うようにする。</p> <p><履修カルテの評価項目：到達目標></p> <p>①教育の目的とは何かについて考察をするが、その場合、歴史的練磨を経てきた教育の古典的思想や子ども観、発達観、学習観の理論に触れて、人間の成長の意味を考えることができたか。</p> <p>②自己体験からだけでなく、社会的・行政的、制度的角度から教育について理解することができるようになったか。</p> <p>③学校・学級に関する問題意識を高めることができたか。</p> <p>④マスコミで話題になる学校教育や子どもの問題について、表面的にではなく、原理的に考察できるようになったか。</p>		
達成目標	<p><履修カルテの評価項目：到達目標></p> <p>①教育の目的とは何かについて考察をするが、その場合、教育基本法上の規定のみならず、歴史的練磨を経てきた教育の古典的思想や子ども観、発達観、学習観の理論に触れて、人間の成長についてアプローチができたか。</p> <p>②自己体験からだけでなく、社会的・行政的、制度的角度から教育について理解することができるようになったか。</p> <p>③学校・学級に関するさまざまな話題について、問題意識を高め、図書館にも出向き、自ら資料を通して分析することができるようになったか。</p> <p>④マスコミで話題になる学校教育や子どもの問題について、表面的にではなく、原理的に考察できるようになったか。</p>		
受講資格	<p>家政学部 人間生活学科 生活総合コース 2年 2単位 選択</p> <p>家政学部 人間生活学科 福祉コース 2年 2単位 選択</p> <p>家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 2年 2単位 選択</p> <p>家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択</p> <p>1年 2単位 選択</p>	成績評価方法	<p>①授業中に1～2回レポートを課し、次回の授業で発表・意見交換を行う。レポートの評価は本授業満点100点のうち10点。</p> <p>②学期末筆記試験結果は、100点の内80点。この2つの総合点に、授業中の真摯さや積極性が見られた学生には加算する。他方、欠席等が多い場合やレポート提出のない学生には、総合点から減点措置をとる。</p>
教科書	<p>特に指定しない。</p> <p>しかし、毎回の授業時にその日の講義内容を詳述した特製レジュメを配布するので、授業内容を忘れるということは決してない。それらを順序良くファイルに綴じて毎回の授業に持参し、復習にも用いること。試験前にはそれら配布資料をしっかりと再読すること。</p> <p>尚、次の、参考書の欄を参照のこと。</p>		
参考書	<p>①第1の参考書は、安彦忠彦・石堂常世共編『最新教育原理』勁草書房、2016版、2,200円＋税。希望者には80%にて取り寄せます。</p> <p>②一般参考書となる文献は、『教育法規』や『文部科学白書』、『子ども・若者白書』などの公的資料や分野別研究書、他に新聞記事など、多数ある。いずれにしても、授業中に教えます。</p>		
学生への要望	<p>講義形式を大切にしながら、同時に提出レポートを活用した発表や、教育的テーマをめぐる意見交換のアクティブな形式を導入することで、教育問題への主体的考察を習慣づける。したがって、受講生には、下調べ的な学習を求める。</p> <p>1 学問的要望</p> <p>教育の原理となっている教育思想や教育行政には、先ず歴史的系譜というものがああり、先ずはそれを理解することが必要である。各思想間には相違や見方の対立があるので、その対立構造や文脈を学ぶことで、主要な教育思想や特徴を把握していくならば、歴史的に知られている教育思想を生き生きと理解することができる。</p> <p>授業中に出てくる思想家、哲学者、教育行政官、教育実践家（学校をつくって教育にあたった人物）については、常に次回授業までに、可能な限り教育学辞典や世界人名事典、インターネット等で調べて確認し、その部分のコピーを取っておき、知識を確実にしよう。</p> <p>2 守るべきこと</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業には清新な気持ちで臨み、新しい内容を発見し、自分を作り上げていってほしい。 参考書は授業中に指示するが、教科書は定めない。毎回配布される授業内容のレジュメや資料を必ずファイルにして綴じておき、それを大切に保存し、毎回の授業時にそのファイルを持参し、教科書として活用すること。 授業に対しては真摯な気持ちで臨み、授業開始時と終了時の礼儀（挨拶）を軽視しないこと。 レポートを出された場合は、既定の日（大抵は翌週の授業時）に必ず提出すること。定期試験前に慌てて過去のレポートを提出することは認められない。レポートは、A4の用紙に印字してくること。 授業開始時には、机の上に決して飲食物を出しておかないように重々心がけること。 		

オフィスタ임	随時、時間のあるときに受け入れるので、相談希望の場合、メールで確認のアポをとること。 石堂：ishidoh@koriyama-kgc.ac.jp 佐久間：kunitomo@koriyama-kgc.ac.jp メールですぐに返事を出します。その折、面談可能な日時や面談場所について明示します。
自学自習	当然ながら、授業中に出された調べ学習は「予習」となる。授業後の内容再理解の「復習」は重要で、教育を見る目を発展的に伸ばしてくれる。教育を見る目に変化が出てくるはずである。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	導入：教職という仕事と教育について学ぶことの意味	主観的体験・主観的見方から客観的見方への転回へ 1 家庭教育という人間形成の基盤 レポート（次回提出）「私の受けた家庭教育の意義」 2 学校・社会から見た教育の構造 家庭教育、学校教育、社会教育 3 教育学の構造を知る 教育を考察する多面的・総合的領域 教育実践の位置
2	「教育」の意味に関する思想的アプローチ	1 レポート「私がうけた家庭教育の意義」の発表・意見交換。 本討論を通して、学校教育の意味と意義について考えるように誘う。 2 主観的生育環境から客観的学校教育体系とそこでの人間形成本論 1 教育の意味をどうとらえるか 消極的教育と積極的教育の意味 教育“education”の語彙の起源からさぐる「教育」の意味 2 人間的成長の本質を考える 植物の成育、動物の飼育と成長、 そして人間の成長
3	子どもを取り巻く環境の変化と今日的課題	1 発達の問題、親の変化・家庭の変化 2 生活の変化と子どもへの影響関係 3 地域の教育力 郡山市教育委員会の試み 4 子どもの主体性と自律性をどう育てるか 5 グローバル時代の教育観：地球市民育成論 6 学校が担うあらたな役割 子どもの貧困問題の中で
4	西洋の教育思想を学ぶ：①古典の部	1 イデアリズム（観念論）の人間像と教育観 ギリシャ時代：ソクラテス、プラトン、アリストテレス、 近世～近代：モンテーニュ、カント、アラン等の系譜 2 宗教的教育観 聖書の教えと、アウグスティヌス、 トマス・ア・ケンピス、コメニウスのパターン 3 感覚論的教育思想（科学的人間観の教育論） ロック
5	西洋の教育思想を学ぶ：②近世～現代の部	4 子ども中心の教育思想：「新教育」の教育思想 子どもの成長そのものを教育とみる考え方 ルソー、エレン・ケイ、ピアジェ、デューイの系譜 5 社会の継承発展の機能としての教育観 国家の管轄下に置かれた20世紀の学校と教育の機能 デュルケイム とくに、1945年以降の教育社会学の影響 6 学校崩壊論：「学校のない社会」という思想の求めていること 管理主義型学校教育への批判と解放論 他方、不登校児童・生徒の増加の問題 復習：主要な教育論者の著作の主張点を振り返る。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
6	日本の教育思想	<ol style="list-style-type: none"> 江戸時代末までの教育観：日本人の精神的骨格 「実語教」に学ぶ人間的熟成：儒教的人間像 「教育勅語」に支配された戦前までの教育：近代国家への躍動の中の学校教育 「教育基本法」と戦後の教育：アメリカ型学校教育の受容とそれらの変化 経済発展の中の受験体制と偏差値という重圧
7	学習指導要領と学校教育の展開	<ol style="list-style-type: none"> 学習指導要領とは何か：教育法令の基礎から理解する 教育課程（カリキュラム）編成の在り方 教科の構造・学習の構造 学問的系統性と子どもの自主性・関心の相克 思想研究：ヘルバルトとデューイの相違 コンピューター活用の授業と学習形態の変化 国際比較からみたカリキュラム編成のあり方 教育行政の在り方との特色 今日の学力の国際比較とそれがもたらしたこと
8	教育法規の体系	<ol style="list-style-type: none"> 日本国憲法 教育基本法 学校教育法・同施行規則
9	日本の教育制度と行政	<ol style="list-style-type: none"> 学校教育制度 社会教育・生涯学習制度 教育行政システム
10	学校制度の類型	<ol style="list-style-type: none"> 学校制度の類型—単線型と複線型— 他国の教育制度 私教育と公教育の違い
11	「学校」という空間	<ol style="list-style-type: none"> 学校・教室の風景 フリースクール 子供の放課後活動の変遷
12	生涯学習社会	<ol style="list-style-type: none"> 戦後の社会教育制度 生涯学習への移行 学校支援ボランティアなどのボランティアの現状
13	教育改革の背景と実際	<ol style="list-style-type: none"> 今日の学校を取り巻く状況の変化 教育改革の過程 教育改革とアクター
14	日本社会が抱える教育に関する病理（1）	<ol style="list-style-type: none"> 子供の貧困
15	日本社会が抱える教育に関する病理（2）	<ol style="list-style-type: none"> 教員の多忙化 モンスターペアレント 授業後半のまとめ

平成30年度

科目名	教育原理Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択
担当教員	山本 裕詞		
開講期	後期		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 この授業では、教育制度を様々な角度から取り上げ、教育をめぐる社会・文化について考察していく。日本や諸外国の教育制度を知ることで、現在の私たちをとりまく教育について自ら考えることをねらいとし、教育法規の視点から教育制度を考えることができることを目標とする。 また、教育に関する法規を扱うことで、教員採用試験に備える。 授業は、基本講義形式で行うが、小レポートの作成、VTRの視聴、授業内での活動・意見交換等のグループワークも設ける。</p>		
達成目標	<p>①日本の教育制度について、どの程度理解することができたか。 ②現代の教育制度の変化について、どの程度理解することができたか。 ③教育経営的な要素について、どの程度理解することができたか。</p>		
受講資格	教職等に就くことを希望する者	成績評価 方法	試験（70%）、レポート（20%）、授業参画度（10%）
教科書	本図愛実・末富芳編『新・教育の制度と経営[新訂版]』学事出版 2017年		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。		
オフィスタイム	<p>月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 木曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。</p>		
自学自習	<p>事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ（1時間）</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	1. 授業に関するガイダンス 2. 教育改革の影響力を考える
2	教育制度の目的	1. 教育基本法第1条、第2条 2. 教育制度を構成する三原理
3	生涯にわたる学び	1. 教育基本法第3条、第12条 2. 社会教育と生涯学習
4	教育の機会均等	1. 教育基本法第4条、第5条 2. 義務教育 3. 高校授業料無償化 4. 高等教育
5	地方教育行政	1. 教育基本法第16条 2. 地方教育行政法 3. 教育委員会制度改革
6	教職員	1. 教育基本法第9条 2. 教育職員免許法 3. 教育公務員特例法 4. 教員の給与と待遇
7	就学前教育	1. 教育基本法第11条 2. こども・子育て支援 3. 少子化対策
8	後期中等教育・高等教育	1. 教育基本法第4条、第7条 2. 後期中等教育の整備と準義務化 3. 高等教育の質保証
9	教育政策の計画化	1. 教育基本法第17条 2. 教育振興基本計画 3. 教育と財政
10	学校の経営	1. 教育基本法第6条、第9条、第13条 2. 学校の経営 3. 学校管理規則 3. 開かれた学校と地域社会 4. チーム学校
11	学級の経営	1. 教育基本法第5条、第6条 2. 学級経営 3. 学級経営と特別活動 4. 問題行動と生徒指導
12	教育課程の経営	1. 教育基本法第6条、第13条 2. 教育課程経営（カリキュラム・マネジメント） 3. PDCAサイクル
13	教育とリスク	1. 教育とリスク
14	授業の確認テストと解説	1. 確認テスト 2. テストの解説
15	授業のまとめ	1. 授業の総まとめ

科目名	教育心理	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択
担当教員	折笠 国康		
開講期	前期		
授業概要	教育心理学は、教育活動をより効果的に行うための心理学的な知見や技術を提供する学問である。本科目を通して、より効果的な教育実践が可能となる教育に関する心理学的な知識や方法を理解することを目標とする。		
達成目標	①認知や感情などの「心の発達」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ②「自己」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ③近年の教育現場で問題となっている事柄をどの程度理解できたか。		
受講資格	家政学部 人間生活学科 生活総合コース 2年 家政学部 人間生活学科 福祉コース 2年 家政学部人間生活学科建築デザインコース2年 家政学部 食物栄養学科 2年	成績評価 方法	授業内容の「80%程度」の理解が必要。理解度の評価は、授業の参加の様子やリアクションシート30%、定期試験70%で行う。
教科書	特に指定はない。		
参考書	講義の中で、適宜紹介する。		
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。		
オフィスタイム	金曜日 2限 835 3限 835		
自学自習	関連図書などを利用して理解を深めること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション、教育心理学とは	この授業の目的と授業方針を理解する。心理学的な思考や考察が果たす役割を理解する。認知心理学の基礎を学び、認知に対する認識について理解する。
2	自己に関わる心理学（1）	アイデンティティ、自己評価、自尊感情の概念を理解し、自己を心理学的に理解する。
3	自己に関わる心理学（2）	アイデンティティ、自己評価、自尊感情の概念を理解し、自己を心理学的に理解する。
4	自己に関わる心理学（3）	本当の自尊感情、本当の自分について心理学的に理解する。
5	記憶と思考（1）	人間の記憶と思考のメカニズムについて理解する。
6	記憶と思考（2）	人間の記憶と思考のメカニズムについて理解する。
7	動機づけの心理学（1）	人間の動機づけについての知見を概観し、動機づけを心理学的に理解する。内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。
8	動機づけの心理学（2）	人間の動機づけについての知見を概観し、動機づけを心理学的に理解する。内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。
9	学級の心理学（1）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。学級アセスメントについて理解する。
10	学級の心理学（2）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。学級アセスメントについて理解する。
11	学級の心理学（3）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。学級アセスメントについて理解する。アクティブラーニングと学級集団の関係を理解する。
12	勇気と勇気づけの心理学	自主自立の姿の達成、人生を主体的に生きるために必要な勇気と勇気づけについて理解する。
13	アドラー心理学（1）	アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。また、人生を主体的に生きるための知見について理解する。
14	アドラー心理学（2）	アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。また、人生を主体的に生きるための知見について理解する。
15	本講義のまとめ	本講義の内容を振り返り、心理学的な知見のまとめを行う。

科目名	教科教育法家庭Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	角間 陽子		
開講期	後期		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 学校、高等学校の家庭科教諭免許を取得するために、家庭科教育の変遷をふまえ、今日の学校教育における家庭科の意義と現状を理解する。また、学習指導要領及び同解説書、教科書及び実際の授業例をもとに、小・中・高等学校について体系的に家庭科教育を学び、学習指導要領、教科の目標、内容、指導方法について学習し、年間指導計画、学習指導案の作成法を学ぶ。生活が直面する諸問題を解決する力を養うための家庭科教育の重要性と役割を考える。</p> <p>□ 〔授業全体の内容の概要〕 家庭科の教育目標、学習内容や家庭科教育の変遷をふまえ、小・中・高等学校ごとに学習指導要領を把握したうえで、その連続性について理解を深める。また、指導案の作成を通して家庭科教育について考える。 【担当：難波・阿部】1回から15回2名で担当する予定。</p>		
達成目標	①中学校家庭科の教育目標および内容を総合的な視点で捉え、理解することができたか ②中学校家庭科学習指導要領から、家庭科教育の意義を理解することができたか ③家庭科の学習指導案（中学校）を作成し、作成した指導案の授業構成（流れ）についてプレゼンテーションができたか。 ④より良い授業づくりのために、積極的に取り組めたか		
受講資格	家庭科教員免許状取得を目指す学生。本科目の単位修得が、「教科教育法家庭Ⅱ」の履修条件となる。	成績評価 方法	①平常点（授業への取り組み）20点 ②課題や提出物（レポート、ノートなど）40点 ③学習指導案の作成とプレゼンテーション40点 ①から③の総合評価とし、60点以上により合格となる。
教科書	中学校学習指導要領解説・家庭編（文部科学省）東京書籍発行 高等学校学習指導要領解説家庭編（文部科学省）開隆堂出版発行 その他、授業時に配布するプリント		
参考書	中学校教科書「技術・家庭 家庭分野」 高等学校教科書「家庭総合」		
学生への要望	家庭科教育法Ⅰは、「教科教育法家庭Ⅱ、Ⅲ」への土台となり、教育実習に繋がる重要な科目であることから、受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。		
オフィスタイム	難波：火（Ⅱ・Ⅲコマ）、木（Ⅱ、Ⅲコマ）場所：被服学研究室 阿部：月（Ⅱ・Ⅲコマ）、金（Ⅱ、Ⅲコマ）場所：福祉情報専攻研究室（家政学館4階）		
自学自習	予習：当日の内容をシラバスで確認しておくこと。教育問題の動向を知るために新聞等から情報を得る習慣を身につけること。（1時間） 復習：授業を踏まえてノートのまとめを行う。また、授業中に出された課題に取り組むこと。（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション【担当：難波・阿部】(9/15)	家庭科教育授業の目的、授業計画などについて説明する。また、家庭科教員の動向について理解を深め。教員を目指すことの意味を考える。
2	家庭科教育を考える1ー求められる人間像とは一【担当：難波・阿部】(9/22)	自分が受けてきた小・中・高の家庭科の授業を振り返る。何故、家庭科の教員を目指すのか。目指す目的と動機を明確にし、今求められている人間像を考えていく。
3	家庭科教育を考える2ー学校教育に求められる視点とは一【担当：難波・阿部】(9/29)	教育現場における家庭科教育の実態と問題点について、新学習指導要領解説を用いながら説明し論点の整理を行う。
4	家庭科教育を考える3ー学習指導要領とは一【担当：難波・阿部】(10/13)	教科書と学習指導要領解説について学ぶ。
5	家庭科学習内容1ー家庭科の学習内容（小学校）一【担当：難波・阿部】(10/20)	小学校家庭科の教科書を用いて、小学5・6年生がどのようなことを学ぶのかを知り、教科書にでてくる基礎・基本の技能を教える側からの視点で学び直す。
6	家庭科学習内容2ー1ー家庭科の学習内容（中学校）一【担当：難波・阿部】(10/27)	中学校家庭科の教科書を用いて、3年間で学ぶ内容をしっかりと把握するとともに、教科書にでてくる基礎・基本の技能を教える側からの視点で学び直す。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
7	家庭科学習内容2-2-家庭科の学習内容（中学校）一【担当：難波・阿部】（11/10）	前回の続きを行う。
8	家庭科学習内容3-家庭科の学習内容（高等学校）一【担当：難波・阿部】（11/17）	高等学校家庭科のうち「家庭基礎」の教科書を取り上げ、どのような内容を学ぶのか解説する。
9	小・中・高の教科書分析を総括する【担当：難波・阿部】（11/24）	家庭科の各領域の特徴を理解し、領域相互の関連性を学び、小・中の学習内容と高等学校の学習段階のなかで理解と体系化を行う。
10	学習指導案（中学校）【担当：難波・阿部】（12/1）	家庭科の授業計画の立て方、家庭科の学習指導案の書き方について、ひな型を提示しながら学ぶ。
11	学習指導案①-中学校の作成【担当：難波・阿部】（12/8）	前回までの学習をもとに各自が任意の単元を選択し、指導案の作成を行う。
12	学習指導案②-授業の構成とプレゼンテーション【担当：難波・阿部】（12/15）	各自が作成した指導案をもとにプレゼンテーションを行う。
13	学習指導案③-授業の構成とプレゼンテーション【担当：難波・阿部】（12/22）	（前回に引き続き）各自が作成した指導案をもとにプレゼンテーションを行う。
14	中学校家庭科の内容の振り返り【担当：難波・阿部】（1/19）	よりよい授業をめざした指導案の作成をするときの留意点の再確認を行う。また、教員採用試験の分析を通して、中学校家庭科の内容を振り返る。
15	中学校家庭科の内容の総括【担当：難波・阿部】（1/26）	本授業を通してどのような力がついたかを自己評価することを通して、中学校家庭科の学習内容の理解を深める。

科目名	教科教育法家庭Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
担当教員	浜島 京子		
開講期	前期		
授業概要	<p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭科の教育目標、学習内容を小・中・高等学校ごとに把握したうえでその連続性について理解できる。 2. 高等学校の家庭科（家庭基礎または家庭総合）の単元指導計画、学習指導案を作成することができ、模擬授業をすることができる。 3. 模擬授業を相互評価することで、授業の指導方法の工夫や改善点が見える。□ <p>【授業の概要】中・高等学校の家庭科教諭免許を取得するために、小・中・高等学校の教育目標、学習内容について体系的に学んだことをもとに、高等学校（家庭基礎または家庭総合）についての単元指導計画、学習指導案の作成を行う。模擬授業では、相互評価を行う。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①高等学校家庭科の教育目標および内容を理解できたか ②高等学校家庭科の単元指導計画、学習指導案の作成はできたか ③体験や実験、実習を取り入れた模擬授業を実施できたか ④より良い授業づくりのために、相互評価に積極的に取り組めたか 		
達成目標	<p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭科の教育目標、学習内容を小・中・高等学校ごとに把握したうえでその連続性について理解できる。 2. 高等学校の家庭科（家庭基礎または家庭総合）の単元指導計画、学習指導案を作成することができ、模擬授業をすることができる。 3. 模擬授業を相互評価することで、授業の指導方法の工夫や改善点が見える。□ <p>【授業の概要】中・高等学校の家庭科教諭免許を取得するために、小・中・高等学校の教育目標、学習内容について体系的に学んだことをもとに、高等学校（家庭基礎または家庭総合）についての単元指導計画、学習指導案の作成を行う。模擬授業では、相互評価を行う。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①高等学校家庭科の教育目標および内容を理解できたか ②高等学校家庭科の単元指導計画、学習指導案の作成はできたか ③体験や実験、実習を取り入れた模擬授業を実施できたか ④より良い授業づくりのために、相互評価に積極的に取り組めたか 		
受講資格	家庭科教員を目指す人	成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> ①授業で配布するコミュニケーションシート ②課題（作品、レポート、小論文など） ③単元指導計画、学習指導案、模擬授業の実践 ④15回の授業内に行うテスト <p>①②合わせて30点、③40点、④30点</p>
教科書	小・中・高の学習指導要領解説 家庭編（文部科学省） 小・中・高の家庭科の教科書（出版されている各社のもの）		
参考書	N. SATOの生活科学実験講座 ①食と健康 N. SATOの生活科学実験講座 ②食生活と食文化 N. SATOの生活科学実験講座 ③くらしと環境		
学生への要望	授業で提示された課題に積極的に取り組みましょう。		
オフィスタイム	火（Ⅰ・Ⅱコマ） 木（Ⅰ・Ⅱコマ） 場所：教職課程推進室		
自学自習			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	私のキャリアプラン ～理想の家庭科教員像～	授業の目的、授業計画、評価の方法などについて説明する。はじめに他者紹介カードを作成し、スピーチを行う。アンケートを通して高等学校の家庭科教育を振り返り、目指したい家庭科教員像を明確にし、今後のキャリアプランの見通しを再確認する。 授業の後半では、第2回の授業で取り上げる外国の家庭科教育について資料を用いて解説する。
2	外国の家庭科教育	日本の家庭科に相当する教科として、海外ではどのような教育がされているのかを知る。外国の教科書と日本の教科書の比較を行い、相違点について一覧表にまとめる。
3	家庭科教育の現状と課題	新学習指導要領を読み、高等学校における家庭教育の現状と課題を捉える。そして今後の家庭科教育の方向性について討論する。
4	家庭科で育てたい「生きる力」とは	「生きる力」の定義を学び、各科目で育てたい生きる力について解説する。そのうえで、各自が考える生きる力についての小論文を作成し発表する。
5	家庭科の学習内容と評価	実技教科である家庭科の評価基準の作成法と評価方法の工夫改善について解説する。
6	家庭科の指導方法	教科書の各領域に登場する指導方法を知り、授業に取り入れる際の留意点について学ぶ。それぞれの指導法について、一覧表にまとめる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
7	「体験」を取り入れた家庭科の授業プラン① ~食分野~	家庭科で重視されている「体験」を取り入れた授業について紹介する。また、「体験」を取り入れる際の留意点について学ぶ。 食分野の授業プランとして、「ビタミンCの簡易実験」について取り上げる。
8	「体験」を取り入れた家庭科の授業プラン② ~環境分野~	家庭科で重視されている「体験」を取り入れた授業について紹介する。また、「体験」を取り入れる際の留意点について学ぶ。 環境分野の授業プランとして、「食料自給率と食品廃棄問題」について取り上げる。
9	「体験」を取り入れた家庭科の授業プラン③ ~消費生活分野~	家庭科で重視されている「体験」を取り入れた授業について紹介する。また、「体験」を取り入れる際の留意点について学ぶ。 消費生活分野の授業プランとして、「商品選択」について取り上げる。
10	模擬授業の計画	各自、単元指導計画と「体験」を取り入れた模擬授業の学習指導案の作成を行う。
11	単元指導計画の発表	各自がパワーポイントを用いて単元指導計画を作成し、発表をする。評価基準表に基づいて、それぞれの発表の評価を行う。
12	模擬授業と相互評価①	各自、作成した指導案をもとに模擬授業を行う。模擬授業の評価シートに基づいて相互評価を行う。
13	模擬授業と相互評価②	各自、作成した指導案をもとに模擬授業を行う。模擬授業の評価シートに基づいて相互評価を行う。
14	模擬授業と相互評価③	各自、作成した指導案をもとに模擬授業を行う。模擬授業の評価シートに基づいて相互評価を行う。
15	高等学校家庭科の内容の総括	本授業を通してどのような力がついたかを知識定着テストや自己評価シートに記入することを通して確認する。 また、教員採用試験の分析を行い、高等学校家庭科の内容を振り返り、理解を深める。

科目名	教科教育法家庭Ⅲ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
担当教員	浜島 京子		
開講期	後期		
授業概要	<p>【授業の到達目標】</p> <p>①授業で活用するための教材・教具の準備・製作ができる。</p> <p>②①で製作した教具を活用して高等学校の家庭科（家庭基礎または家庭総合）の模擬授業をすることができる。</p> <p>③ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について理解する。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>中・高等学校の家庭科教諭免許を取得するために、小・中・高等学校の教育目標、学習内容について体系的に学んだことをもとに、高等学校の家庭科（家庭基礎または家庭総合）についての年間指導計画、学習指導案の作成を行うとともに、効果的な教材・教具を製作する。製作した教具を活用した模擬授業を行って相互評価を行う。また、新学習指導要領に取り上げられている「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」について実践例をもとに学ぶ。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①学習指導案の板書計画をたてることができたか</p> <p>②模擬授業に活用できる教具を製作することができたか</p> <p>③ホームプロジェクトや学校家庭クラブについて理解できたか</p> <p>④ホームプロジェクトのプレゼンテーションに積極的に取り組んだか</p>		
達成目標	<p>【授業の到達目標】</p> <p>①授業で活用するための教材・教具の準備・製作ができる。</p> <p>②①で製作した教具を活用して高等学校の家庭科（家庭基礎または家庭総合）の模擬授業をすることができる。</p> <p>③ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について理解する。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>中・高等学校の家庭科教諭免許を取得するために、小・中・高等学校の教育目標、学習内容について体系的に学んだことをもとに、高等学校の家庭科（家庭基礎または家庭総合）についての年間指導計画、学習指導案の作成を行うとともに、効果的な教材・教具を製作する。製作した教具を活用した模擬授業を行って相互評価を行う。また、新学習指導要領に取り上げられている「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」について実践例をもとに学ぶ。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①学習指導案の板書計画をたてることができたか</p> <p>②模擬授業に活用できる教具を製作することができたか</p> <p>③ホームプロジェクトや学校家庭クラブについて理解できたか</p> <p>④ホームプロジェクトのプレゼンテーションに積極的に取り組んだか</p>		
受講資格	家庭科教育法Ⅰ・Ⅱを受講していることが望ましい。	成績評価 方法	①家庭科教育についての小論文 ②課題・学習指導案・製作した教具 ③模擬授業 ④ホームプロジェクトのプレゼンテーション ①20点、②20点、③30点、④30点
教科書	<p>テキスト</p> <p>小・中・高の学習指導要領 家庭編（文部科学省）</p> <p>小・中・高の学習指導要領解説 家庭編（文部科学省）</p> <p>小・中・高等学校家庭科の教科書（出版されている各社のもの）</p>		
参考書	<p>参考書・参考資料等</p> <p>N. SATOの生活科学実験講座 ①食と健康</p> <p>N. SATOの生活科学実験講座 ②食生活と食文化</p> <p>N. SATOの生活科学実験講座 ③くらしと環境</p> <p>くらしの豆知識（国民生活センター）</p>		
学生への要望	<p>受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。次年度の教育実習に向けて、模擬授業を通して、実践力を高めていく。より良い授業になるように、板書計画、教具作りにしっかり取り組むこと。</p> <p>事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと。教育問題の動向を知るために、新聞等をよく読んでおくこと。（60分）</p> <p>事後学習：授業を踏まえて、ノートまとめを行うとともに課題に取り組むこと。（60分）</p>		
オフィスタイム	<p>火（Ⅱ・Ⅳコマ）</p> <p>場所：教職課程推進室</p>		
自学自習			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
---	----	------

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション 高等学校家庭科の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の目的および授業計画（シラバス）について説明する。 ○家庭科教育についてのアンケートを実施する。 ○教科教育法家庭Ⅱのふりかえりを行い、「わかる授業」を目指して今後どのようなことに取り組んだらよいか意見を出し合う。 ○授業で使用する「教具」について実例を示しながら説明する。 ○高等学校家庭科（家庭基礎と家庭総合）の学習内容を説明した後、各自模擬授業の領域を決める。
2	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動のちがひ	<ul style="list-style-type: none"> ○全国高等学校家庭クラブ連盟の沿革と概要について説明する。 ○全国高等学校家庭クラブ連盟主催の全国ホームプロジェクトコンクールの入賞論文や作品を紹介する。 ○教職課程の学生が、ホームプロジェクトを実際に体験して、生徒に研究発表の仕方を指導する際の方法について理解を深める。 <p>ホームプロジェクトのテーマ：東日本大震災と家庭科教育 「衣」、「食」、「住」、「家族」、「家庭」、「環境」、「情報」、「コミュニケーション」などの分野から、各自が選んだことについて、調べ、まとめ、プレゼンテーションする（15回にHP発表会を行う）。</p>
3	高等学校家庭科の単元指導計画および学習指導案の作成	<ul style="list-style-type: none"> ○任意の単元または題材についての学習指導計画を作成する。 ○学習指導案については、【板書計画】【プリント作成】に重きを置いて作成する。
4	「わかる授業」を目指してー板書計画ー	○各自が作成した板書計画をプレゼンテーションし、自己評価および相互評価を行う。
5	「わかる授業」を目指してーワークシートの作成ー	○各自が作成したワークシートを実際に使用しながら、問題や課題を見つけ、生徒にわかりやすいプリントになるように改善する。
6	模擬授業 「衣生活」領域ー自己評価および相互評価 その1ー	○模擬授業を実施する。授業評価チェックリストに従い、自己評価と相互評価を行う。
7	模擬授業 「家族・家庭生活」領域ー自己評価および相互評価 その2ー	○模擬授業を実施する。授業評価チェックリストに従い、自己評価と相互評価を行う。
8	模擬授業 「発達と保育」領域ー自己評価および相互評価 その3ー	○模擬授業を実施する。授業評価チェックリストに従い、自己評価と相互評価を行う。
9	模擬授業 「高齢者福祉・共生社会」領域ー自己評価および相互評価 その4ー	○模擬授業を実施する。授業評価チェックリストに従い、自己評価と相互評価を行う。
10	模擬授業 「住生活」領域ー自己評価および相互評価 その5ー	○模擬授業を実施する。授業評価チェックリストに従い、自己評価と相互評価を行う。
11	家庭科と消費生活 その1：地域と連携した消費者教育の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○多様化する消費者トラブルの実情を知るために、消費生活センターの見学を行う。 ○自治体発行の啓発資料を授業で活用する方法を検討する。
12	家庭科と消費生活 その2：キャリア教育と関連させた授業の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育と関連させた消費者教育の授業内容について知る。 ○給与明細表の見方、金融取引の金利計算等の具体的事例をととして、自己管理の方法や人生設計について考えを深める。
13	家庭科と環境	<ul style="list-style-type: none"> ○持続可能な社会のしくみについて学ぶ。 ○ESDと家庭科の関連について学ぶ。 ○地球規模で環境問題を捉え、家庭科の授業をととして、何を教材にどのように教えたならよいかを議論する。
14	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ○教職課程の学生自身が、実際にホームプロジェクトを体験し、生徒に指導する際の方法について、理解を深める。 <p>ホームプロジェクトのテーマ：東日本大震災と家庭科教育 「簡単な調理体験実習」を行い、東日本大震災から学んだことを家庭科の授業でどう生かすか話し合う。</p>
15	ホームプロジェクト研究発表会	<ul style="list-style-type: none"> ○各自が、パワーポイントを活用し、プレゼンテーションを行う。 ○チェックリストに従い、自己評価と相互評価を行う。

平成30年度

科目名	教科教育法家庭Ⅳ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 2単位 選択
担当教員	難波 めぐみ			
開講期	前期			
授業概要	<p>【授業の到達目標】 中学校・高等学校家庭科教諭免許を取得するために、「教科教育法家庭Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」で学修した小・中・高等学校の教育目標や、学習内容について体系的に学んだことをもとに、単元指導計画、学習指導案の作成を行う。模擬授業を構成し、また、模擬授業の体験を通して、生活が直面する諸問題を解決する力を養うための家庭科教育の重要性と役割を考える。また、教壇実習にも耐える対応力を身につける。□</p> <p>【授業の概要】 中・高等学校の家庭科教諭免許を取得するために、小・中・高等学校の教育目標、学習内容について体系的に学んだことをもとに、中学または高等学校の家庭科単元指導計画、学習指導案（細案）の作成を行う。模擬授業では、相互評価など重要な評価方法を学ぶ。</p> <p>【履修カルテの評価項目】 ①中・高等学校家庭科の教育目標および内容を理解できたか ②中・高等学校家庭科の単元指導計画、学習指導案の作成はできたか ③体験や実験、実習を取り入れた模擬授業を実施できたか</p>			
達成目標	<p>【達成目標】 ①家庭科指導計画および学修指導案（細案）の作成ができたか ②指導計画及び指導案をもとにより良い模擬授業となるよう心掛けて実践することができたか ③事前事後学習に積極的に取り組むことができたか</p>			
受講資格	家庭科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを受講していることが望ましい。	成績評価方法	①平常点（授業への取り組み）20点 ②提出物（レポート、小論文など）40点 ③課題（単元指導計画、学習指導案、模擬授業の実践）40点 ①～③の総合評価、60点以上で合格となる。	
教科書	小・中・高の学習指導要領 家庭編（文部科学省） 小・中・高の学習指導要領解説 家庭編（文部科学省） 小・中・高等学校家庭科の教科書（出版されている各社のもの）			
参考書	『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 技術・家庭】』、『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校】』			
学生への要望	家庭科教員としての資質を高めるために、授業で出される課題や模擬授業に主体的に取り組むこと。			
オフィスタイム	火（Ⅰ・Ⅱコマ） 、水（Ⅳコマ） 家政学館4F被服学研究室。不在の場合もありますので、授業終了後確認して下さい。			
自学自習	予習：当日の授業内容をシラバスで確認しておくこと。教育問題の動向を知るために新聞等から情報を得る習慣を身につけること。（1時間） 復習：授業や模擬授業を踏まえてノートにまとめを行う。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス—家庭科教員像—(4/10)	授業の目的、授業計画、評価の方法などについて説明する。「教科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」で学んだ内容を確認しながら、家庭科教員としての存在を考えていく。
2	学習指導計画と学習指導案（細案）の作成(4/17)	評価基準の作成、評価方法を学び、各自、指導計画および学習指導案（細案）を作成する。
3	学習指導計画と授業例(4/24)	家庭科の授業例と指導計画および授業の構成について
4	模擬授業と相互評価(5/8)	教材研究および指導計画案の発表
5	模擬授業と相互評価(5/15)	教材研究および指導計画案の発表
6	模擬授業と相互評価(5/22)	教材研究および指導計画案の発表
7	模擬授業と相互評価(5/29)	教材研究および指導計画案の発表
8	模擬授業と相互評価(6/5)	教材研究および指導計画案の発表
9	模擬授業と相互評価(6/12)	教材研究および指導計画案の発表
10	体験授業から家庭科教育を考える①(6/19)	教育実習での実習内容を復習し、指導案の再作成に取り組む。模擬授業及び相互評価を実施する。
11	体験授業から家庭科教育を考える②(6/26)	教育実習での実習内容を復習し、指導案の再作成に取り組む。模擬授業及び相互評価を実施する。
12	体験授業から家庭科教育を考える③(7/3)	教育実習での実習内容を復習し、指導案の再作成に取り組む。模擬授業及び相互評価を実施する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	「家庭科教員としての資質」を考える(7/10)	家庭科の授業の重要性を再認識し、家庭科を学ぶ意義と目的について再確認する。
14	「家庭科教員としての資質」を考える(7/17)	家庭科を教える意義と他教科との横断的な学習事例を検証し、より良い教材作りに活かせるようにまとめに取り組む。
15	中・高等学校家庭科の内容の総括～(7/24)	本授業を通してどのような力がついたか振り返り、家庭科教員として備えておくべき知識の定着を図る。

平成30年度

科目名	教科教育法福祉 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択	
担当教員	熊田 伸子			
開講期	後期			
授業概要	社会福祉の現場が求めている人材育成を念頭に置き、福祉科設立の歴史の変遷や教育指導の編成、及び、指導計画の立案を演習形式で行い、現場で対象となる人々との人間関係の構築が可能となるよう、基礎的専門知識と技量の習得を目指して、福祉科教論に求められる資質を考える。			
達成目標	高等学校福祉科教育に従事する者として、社会福祉の知識や制度などについて基礎から学習し、それらを用いた講義を展開できるようにする。 【履修カルテ評価項目】 ①福祉教育の目的、意義について理解できたか。 ②福祉教育の歴史、理論について理解できたか。 ③福祉の授業の指導法や展開について考えることができたか。			
受講資格	福祉コース教職履修者	成績評価 方法	レポート50%、実技試験50%	
教科書	指定なし。プリントを配布する。			
参考書	『福祉教科教育法』 ミネルヴァ書房			
学生への要望	福祉が取り扱い内容は幅広いので、社会の状況についても関心を持ち、新聞や文献を読んでください。			
オフィスタイム	月曜日の1・2時限目、金曜日の5時限目 創学館No.6 研究室			
自学自習	予習：キーワードを調べ、ノートにまとめる。(30分) 復習：授業の内容をノートにまとめる。(1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	福祉教育の意義	教科「福祉」に関する意義や理念、概念などについて学習する。
2	福祉科の学習指導	学習指導要領の解説や学習指導の形態について知識を深める。
3	福祉科のカリキュラム	教科「福祉」のカリキュラムや指導計画の作成と内容の取り扱いについて学ぶ。
4	福祉科の教材研究と評価	学習教材の研究や学習資料の活用、評価方法について学習する。
5	福祉科授業の方法と社会福祉の理解	福祉科授業の理念・目的や社会福祉について理解を深め学習する。
6	福祉科教育法の実際①	教育計画の作成方法やノーマライゼーションの理解を目指す。
7	福祉科教育法の実際②	高齢者問題や児童、家族問題についての教育法について学ぶ。
8	福祉科教育法の実際③	生存権や生活保護法問題、バリアフリー等について理解を深める。
9	福祉科教育法の実際④	相談面接の方法と、現場経験者などの外部講師導入による教育を考える。
10	福祉科教育法の実際⑤	他者理解と自己理解、環境保護と社会連帯について学習する。
11	福祉教育の歴史①	戦前における日本の福祉や福祉教育について学び、理解を深める。
12	福祉教育の歴史②	戦前から現代における日本の福祉や福祉教育についてまとめる。
13	福祉科の教育実習	福祉科の教育実習について、その実施内容や展開、評価について学習する。
14	福祉科教論の資質	福祉科教論としての資質について、多角的に捉えて考察する。
15	まとめ	これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学習する。

平成30年度

科目名	教科教育法福祉Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択
担当教員	熊田 伸子		
開講期	前期		
授業概要	教科教育法福祉Ⅱでは、教科教育法福祉Ⅰの内容を踏まえ、教科「福祉」の各科目の目標と内容を確認するとともに、学習指導案の作成や教材研究・模擬授業等を通して、実際に授業を行うための知識と方法を修得する。		
達成目標	教科「福祉」の中にある9科目の内容や学修するポイント等をしっかりと抑え、すべての科目を教授できるようになることが目標である。 【履修カルテの評価項目】 ①教科「福祉」ができた歴史的背景をどの程度理解できたか。 ②教科「福祉」内の9科目それぞれをその程度理解できたか。 ③教科「福祉」の教授方法をその程度獲得できたか。		
受講資格	教科教育法福祉Ⅰを履修していること	成績評価 方法	レポート50%、模擬授業50%
教科書	プリントを配布します		
参考書	高等学校学習指導要領「福祉」		
学生への要望	内容の理解だけでなく、実際に授業ができるような技術を修得するよう努力してください。		
オフィスタイム	月曜日3時限、金曜日3時限 創学館 No.6 研究室		
自学自習	予習：次週項目のキーワード等について調べておく（30分） 復習：授業内容についてノートにまとめる。（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の進め方、シラバスの項目についての説明。
2	教科「福祉」の目標	・教科「福祉」の改訂の経緯および改訂の要点 ・教科「福祉」の目標と科目編成について
3	社会福祉基礎	社会福祉基礎の目標やその内容について取り上げ、要点をまとめる。 また、教材検討を行い、指導方法について話し合う。
4	介護福祉基礎	介護福祉基礎の目標やその内容について取り上げ、要点をまとめる。 また、教材検討を行い、指導方法について話し合う。
5	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術の目標やその内容について取り上げ、要点をまとめる。 また、教材研究を行い、指導方法について話し合う。
6	生活支援技術	生活支援技術の目標やその内容について取り上げ、要点をまとめる。 また、教材検討を行い、指導方法について話し合う。
7	介護過程	介護過程の意義や内容について取り上げ、要点をまとめる。 また、教材検討を行い、指導方法について話し合う。
8	介護総合演習	介護総合演習の目標やその内容について取り上げ、要点をまとめる。 また、教材検討を行い、指導方法について話し合う。
9	介護実習	介護実習の目標やその内容について取り上げ、要点をまとめる。 また、教材検討を行い、指導方法について話し合う。
10	福祉情報活用	福祉情報活用の目的やその内容について取り上げ、要点をまとめる。 また、教材検討を行い、指導方法について話し合う。
11	模擬授業①	各学生が模擬授業を実施する。そして、その授業の教材や実施方法について検討を加える。
12	模擬授業②	各学生が模擬授業を実施する。そして、その授業の教材や実施方法について検討を加える。
13	模擬授業③	各学生が模擬授業を実施する。そして、その授業の教材や実施方法について検討を加える。
14	模擬授業の総括	11～13回までの模擬授業を総括し、より良い授業の進め方について検討をする。
15	まとめ	講義1～14回までのまとめを行う。

科目名	道徳教育の理論と方法		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
担当教員	関川 悦雄			
開講期	後期			
授業概要	本授業では、道徳教育は道徳科という授業だけでなく、学校における全体の教育活動を通しても行われることになっており、「道徳教育は苦手だから教えない」というわけにはいきません。週1時間の「道徳の時間」は「特別の教科」として道徳科になり、教員を目指す皆さんは今まで以上に道徳教育について学ぶ必要があります。道徳教育を行うためには、まず自らが「道徳とは何か」を自問自答しながら、道徳教育の歴史や道徳性の発達に関する基礎知識を習得していることが求められます。さらに、道徳についての思索を深めつつ、学校全体にわたる道徳教育の目標・内容、道徳科の目標・内容・指導計画と実際の指導、そして道徳科の成立に伴う「新しい道徳授業」を模索して行きます。			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 道徳とは何か、自問自答できる。 2 「道徳性」を構成する諸様相、小学校と中学校にわたるその道徳性の発達について系統的に理解できる。 3 道徳教育と道徳科のそれぞれの目標・内容・指導計画を理解し、これらに沿って実際の指導ができる。 4 新しい道徳授業をつねに模索し続けることができる。 			
受講資格	中学校・高校教諭の教員免許状の取得を目指す学生。	成績評価 方法	毎回ワークシートを使用し、毎回教科書を使いこのワークシートの内容空欄を埋め、どこかで1回は模擬授業ができることで、60%で合格とする。定期試験で40%を加算する。	
教科書	羽田積男・関川悦雄編著『道徳教育の理論と方法』（弘文堂）を使用する。			
参考書	必要に応じて紹介する。			
学生への要望	講義への主体的、協力的な参加を要望する。専用のノートを準備すること。			
オフィスタイム	随時、時間のあるときに相談に応じるので、下記のメール・アドレスで事前のアポをとること。ugg28553@m4.dion.ne.jp			
自学自習	教科書を各回の項目に沿って、各章の各小見出しごとに、その内容を熟読すること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	講義ガイダンス	授業の進め方やワークシートの活用、成績評価の付け方、班別討議の仕方などを説明する。
2	道徳とは何か	道徳に関する事例を多角的に検討し、徳目主義の問題点と道徳教育の可能性を考える。
3	わが国の道徳教育の歴史 (1)	戦前の道徳教育の歴史—修身科における道徳教育の推移や教育勅語体制の確立、戦時期の国民学校における修身科教育のありようを考察する。
4	わが国の道徳教育の歴史 (2)	戦後の道徳教育の歴史—修身科の廃止、「道徳の時間」の特設、「特別の教科」としての道徳科の成立の流れを検討する。
5	道徳性の発達 (1)	道徳性を構成する諸様相にはどんなものがあるか。
6	道徳性の発達 (2)	小学校児童の道徳性の発達と中学校生徒の道徳性の発達について系統的にとらえる。
7	学校における道徳教育 (1)	道徳教育の目標と内容をとらえて、その適切な指導を考える。
8	学校における道徳教育 (2)	道徳教育の全体計画の事例を参照しながら、その作成する際の配慮すべき事項と全体計画の意義と内容について考える。
9	道徳科の目標と内容 (1)	道徳科の授業と、それ以外の教育活動における道徳教育との関係について考える。
10	道徳科の目標と内容 (2)	道徳科の目指すべき目標を検討する。
11	道徳科の目標と内容 (3)	道徳科の内容項目と、その取扱いの工夫について考える。
12	道徳科の指導計画と実際の指導 (1)	道徳科の指導計画の立案と、それに沿った道徳授業を展開してみる。
13	道徳科の指導計画と実際の指導 (2)	道徳科の指導方法の模索と評価の意義について考える。
14	新しい道徳授業を求めて	「考え、議論する道徳の授業」を実践するには、どんな工夫が必要なのかを検討する。
15	授業のまとめ	

科目名	特別活動論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択
担当教員	関川 悦雄		
開講期	前期		
授業概要	本講義では、学校教育における教科外活動について、その教育課程上の位置づけや教育的意義を基本的に理解し、その上で学習指導要領における特別活動、すなわち学級（ホームルーム）活動・生徒会活動・学校行事などの各目標・内容・指導法について体験的に理解できるようにすることを重要な目的とする。		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校教育における教科外活動の意義を理解できる。 2 学級活動の教育的意義とその指導内容・方法を理解できる。 3 生徒会活動・学校行事などの教育的意義とその指導内容・方法を理解できる。 		
受講資格	中学校教諭の教員免許の取得を目指す学生	成績評価 方法	内容の「60%」の理解で合格とするが、「80%程度」の理解が望まれる。理解度の評価は小レポート30%、定期試験70%で行う。
教科書	関川悦雄『最新特別活動の研究』（啓明出版）を使用する。		
参考書	必要に応じて紹介する。		
学生への要望	講義への主体的、協力的な参加を要望する。 専用のノートを準備すること。		
オフィスタイム	随時、時間のあるときに相談に応じるので、下記のメール・アドレスで事前のアポをとること。 ugg28553@m4.dion.ne.jp		
自学自習	教科書を各章の各項目見出しごとに、それに沿って熟読すること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	講義ガイダンスと課外活動のアンケート	この授業の目的と授業方針を理解する。中高時代における課外活動のアンケートを行う。
2	アンケートの結果の分析と特別活動の意味	アンケート結果を分析して、特別活動の意味を明確にし、そして特別活動をどうして学ぶのかを考える。
3	教育課程と特別活動の関係	教育課程の意味・定義を明らかにして、教育課程と特別活動の関係をとらえる。
4	教育的価値の認められた課外活動の実例（1）	19世紀イギリスのラグビー・スポーツと明治期の遠足の始まり・実態とその意義を考える。あわせて、現在の遠足の意義も明らかにする。
5	教育的価値の認められた課外活動の実例（2）	明治期の運動会と学芸会のそれぞれの始まりと実態とその意義を考える。あわせて、現在の運動会と学芸会の意義も明らかにする。
6	教育的価値の認められた課外活動の実例（3）	大正期の相談会と昭和前期の課程外指導・修練課程の実態とその意義を考える。あわせて、現在の学級活動の意義にも触れる。
7	課外活動の教育課程化とその条件	課外活動の教育課程化とはどういうことか。そして、G. ジョーンズが提起したその課程化の条件に何があって、特別活動はその条件を充足するのか。
8	教科課程の決まり方と自由研究の新設	教科課程はどのようにして決まるか。また、自由研究の新設・内容・問題点を明らかにする。この自由研究が次の特別教育活動にどう継承されるか。
9	特別教育活動の登場と特別活動の成立	特別教育活動の登場とその用語の意味を考える。学習指導要領の性格の変化と、特別教育活動から特別活動への変更はどうか。
10	特別活動の教育課程化の歩みの整理	戦後における自由研究—特別教育活動—特別活動の歩みを教育課程化の条件に沿って整理する。そして、特別活動の教育基本法における位置づけを明確にする。
11	学習指導要領の改訂とねらい	学習指導要領の改訂（2008年）の経緯とそのねらいを明らかにする。
12	特別活動の改訂と目標	特別活動はどのような基本方針のもとにどう見直されたのか。そして、特別活動の目標はどのように規定されているか。
13	学級活動の目標と内容	学級活動はどのような目標のもとに行われるのか。そして、学級活動は、学級担任の教師によって担当されるが、どんな内容のものを扱われるのか。
14	学級活動の指導法と生徒会活動の内容	学級活動の取扱い・指導法を整理し、生徒会活動との関連を考え、その活動内容を明示する。
15	学校行事の活動内容と全体のまとめ	学校行事の意義とその活動内容を明示し、最後に特別活動全体のまとめを行う。

科目名	教育方法論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択
担当教員	山上 裕子		
開講期	後期		
授業概要	教育の方法は、学ぶ者、学ぶ内容によって動く生きたものである。何をどう教えていくのか、学校全体の教育課程全体像をつかみつつ、日々の授業を創意工夫していく必要がある。特に現在は、自ら主体的に考えるアクティブな学びが求められている。本講義では、教育方法の基礎理論をもとに、教育課程の意義や編成、授業の構成要素や評価、また、授業の基礎的な技術や指導案の作成及び模擬授業を行う。そして、教育機器の効果的な使用方法について学ぶ。		
達成目標	①教育方法の基礎理論について理解できたか。 ②授業の構成要素や多様な学習評価について理解できたか。 ③授業の指導技術のポイントを理解し、指導案を作成できたか。 ④教育課程の意義とカリキュラムをマネジメントする必要性を理解できたか。 ⑤情報モラルの現状と課題について理解できたか。 ⑥ICT教育の特徴と教材作成方法について理解できたか。		
受講資格	教職課程履修者	成績評価 方法	授業参加度 20%、レポート 80%
教科書	・小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）		
参考書	・佐藤学『教育の方法』左右社、2012年。 ・古藤泰弘『教育方法学の実践研究』教育出版、2013年。 ・その他、授業中に適宜資料を配布する。		
学生への要望	授業用ノートを準備し、疑問点などメモをとること。 遅刻、欠席をしないよう注意すること。		
オフィスタイム	水曜日 12:00～12:50 金曜日 14:30～16:00 833研究室		
自学自習	事前：次回の授業内容を、毎回確認すること。 事後：学んだ内容について、ノートを整理すること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション（担当：山上裕子）	授業内容について説明を受け、到達目標を確認する。これまで受けてきた授業を振り返り、現在求められている学びについて考える。
2	教育の方法の基礎（担当：山上裕子）	子どもから学びが始まる、という教育観に立つ先人たち（ルソーの消極的な教育、ペスタロッチの直観教育等）の提案した教育方法の考え方と、その実践について学ぶ。
3	問題解決学習（担当：山上裕子）	自らが問い、課題を設定し、それを解決していくデューイの問題解決学習の理論と実践を学ぶ。また、今日に見られる総合的な学習の時間や道徳教育で取り込まれている実践を例に理解を深める。
4	多様な授業の形態と授業の構成要素（担当：山上裕子）	一斉授業や個別指導、モニトリアル・システムやドルトンプランなどの多様な授業方法を学ぶ。授業を構成する要素を検討し、主体的な学びとなるための教材の工夫について考え、小レポートにまとめる。
5	教育課程の役割と意義（担当：山上裕子）	20世紀初頭、アメリカで生じたカリキュラム議論に立ち返ることで、教育課程の多様な考え方について学ぶ。また、日本で告示なされている「学習指導要領」の性格や社会で果たしている役割を学ぶ。
6	学力観の変遷（担当：山上裕子）	「学習指導要領」の変遷をたどることを通して、日本の学力の考え方の変遷を理解する。また、今日求められている学力について考える。
7	教育課程の編成（担当：山上裕子）	教育課程の編成の基本を学び、具体的な教育計画をシュミレーションすることとおして、教育内容の選択や配列、指導計画の検討について考える。
8	学校組織の中の学び（担当：山上裕子）	日々の授業は、学校全体の教育課程の位置づけにおいてなされる重要性を知るとともに、教育課程をマネジメントするという考え方の大切さを学ぶ。
9	多様な学習の評価（担当：山上裕子）	授業形態に応じた多様な評価について、基礎理論に立ち戻りつつ、何をどのように評価を行うのかを学ぶ。
10	指導案の作成（担当：山上裕子）	これまでの授業内容を踏まえ、指導案を作成するための具体的な注意点を学び、指導案を作成する。
11	模擬授業（担当：山上裕子）	話し方、板書の仕方等に留意し、作成した指導案を試す。
12	模擬授業の検討（担当：山上裕子）	より深い学びとなる授業の指導案の書き方や、技術について、模擬授業を検討し合う。小レポートにまとめる。
13	情報モラルの現状と課題（担当：山口猛）	情報機器（スマートフォン・タブレット等）が急速に普及する中、子どもたちの学びを脅かすさまざまな課題（情報機器の利用実態・事件/事故）を理解し、対策を学ぶ。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	ICT教育の歴史と現状（担当：山口猛）	文部科学省・総務省によるICT教育推進の歴史を確認する。また、ICT教育環境の具体的な活用事例から、長所と短所の理解を深める。
15	ICT教育対応デジタル教材の作成（担当：山口猛）	ICT教育に対応するデジタル教材作成法を学ぶ。教材作成は専門的なソフトウェアではなく、一般的に普及しているオフィスソフト（Microsoft Office）の標準機能を用いる。

<p>科目名</p>	<p>生徒指導論</p>	<p>対象 単位数 必選</p>	<p>家政学部 人間生活学科 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修</p>
<p>担当教員</p>	<p>山本 裕詞</p>		
<p>開講期</p>	<p>後期</p>		
<p>授業概要</p>	<p>生徒指導とは、学校教育において全教職員が関わる校務のひとつであり、時代によってその名称は変化し、その内容にも若干の変化があった。まず、学校教育の業務構造（領域と校務分掌）との関係で生徒指導とは何かを理解し、その後、歴史的展開の中での生徒指導の機能と意味を把握する。さらに、いじめや不登校、そして問題行動や非行が話題となってきた20世紀末から、生徒指導はその意味合いを、問題行動の予防と対策に重点化してきていること、そこで、どのような問題や課題が子どもたちを取り巻いており、どのような指導・対応が望まれるのかを学ぶ。</p> <p>また、これと合わせて、進路指導や教育相談の仕事についても、生徒指導の一環であるという認識のもとに、理解を深めていく。最終的に、教員になった場合に、子どもたちの実態についてたじろぐことなく、問題行動の予防と対処に、教職員間で協働して進めていけるよう、実践的理解を深めていきたい。</p> <p>【履修カルテの評価目標】【自己評価目標】は以下の4点</p> <p>①教師の仕事は教科を教えるだけでなく、子どもたちの人格を磨き、社会性を身につけさせ、独立した自立的な人間として形成することであるので、そのための力量と人間性をもつ必要があることを自覚できたか。</p> <p>②生徒指導主事の役割を認識できたか。また各教師は、集団としての生徒指導以外に、個別相談に関してカウンセラー的能力をもっている必要があることが理解できたか。</p> <p>③生徒指導は、教師1人ではできないこと、学校内の教職員の協力体制があつてこそ可能であり、学級・学校経営の在り方にも関わっている。ゆえに、生徒指導のためには、校長、副校長といった管理職はいうまでもなく、学年主任や養護教諭やスクール・カウンセラーとの連携が重要であることを理解できたか。</p> <p>④生徒指導は、非行予防・非行対策のみならず、子どもたちの健全育成のための教育プランと連動すること、その推進には、PTAを始め地域社会の人々や、教育委員会、警察の生活安全課少年係、民生委員、ボランティアの方々等との連携が必要となっており、地域の支援のもと学校全体で取り組む仕事となっていることが理解できたか。</p>		
<p>達成目標</p>	<p>【履修カルテの評価目標】【自己評価目標】は以下の4点</p> <p>①教師の仕事は教科を教えるだけでなく、子どもたちの人格を磨き、社会性を身につけさせ、独立した自立的な人間として形成することであるので、そのための力量と人間性をもつ必要があることを自覚できたか。</p> <p>②生徒指導主事の役割を認識できたか。また各教師は、集団としての生徒指導以外に、個別相談に関してカウンセラー的能力をもっている必要があることが理解できたか。</p> <p>③生徒指導は、教師1人ではできないこと、学校内の教職員の協力体制があつてこそ可能であり、学級・学校経営の在り方にも関わっている。ゆえに、生徒指導のためには、校長、副校長といった管理職はいうまでもなく、学年主任や養護教諭やスクール・カウンセラーとの連携が重要であることを理解できたか。</p> <p>④生徒指導は、非行予防・非行対策のみならず、子どもたちの健全育成のための教育プランと連動すること、その推進には、PTAを始め地域社会の人々や、教育委員会、警察の生活安全課少年係、民生委員、ボランティアの方々等との連携が必要となっており、地域の支援のもと学校全体で取り組む仕事となっていることが理解できたか。</p>		
<p>受講資格</p>	<p>家政学部 人間生活学科 生活総合コース 3年 2単位 選択 家政学部 人間生活学科 福祉コース 3年 2単位 必修 家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 3年 2単位 選択 家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択 1年 2単位</p> <p>この授業を受けるには、教育原理、教育学原論、道徳教育論などを受講済みであることが望ましい。しかし、それがかなわない場合は、熱心に授業に取り組み、指示された参考文献の該当頁を読み、社会変化と子どもの変化に日々注目しつつ、子どもの健全性とは何かを考えるように努めること。</p>	<p>成績評価方法</p>	<p>レポートを2、3回とり、発表させる。さらに学期末の筆記試験がある。レポート20%、学期末試験80%で、総合点を出し、授業への取り組みが積極的な場合はそれに加算し、これと反対の場合は総合点から減点する。</p>
<p>教科書</p>	<p>・文部科学省『生徒指導提要』 ・毎回の授業において、その日のテーマに即したレジュメや資料を配布するので、それらをしっかりファイルにして第2の教科書として所持していること。</p>		
<p>参考書</p>	<p>無数にあるので、授業中にその都度紹介する。 尚、『青少年白書』、『子ども年鑑』などは重要文献である。近年の刊行のものがよい。</p>		

<p>学生への要望</p>	<p>授業に際しては、 ①授業中に飲食をしない。机上に飲食物を出しておかない。 ②レポートは必ず指定の日までに出す。 ③指名された場合には、積極的に前に出て発表等を行う。 ④他人の発表内容を傾聴し、質問等をして理解を深める。 ⑤毎回の授業で何かしら「なるほど」と理解を深め、楽しく授業を聴き、自分を高めていくこと。 ⑥授業で配布されるプリントを「レジュメ」という。すべてのレジュメを順序よく1冊のファイルに綴じて、教科書として使用すること。</p>
<p>オフィスタイム</p>	<p>月曜・金曜以外の日で、授業・会議のない日ならいつでも来室（創学館5階副学長室）可能です。原則、アポを以下のメールでとること。 ishidoh@koryama-kgc.ac.jp</p>
<p>自学自習</p>	

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	導入 本授業の構成・計画について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業の目標と、15回分の授業内容構成について、理解する ・次回までの提出物として、レポート「思い出に残る先生」をまとめ提出する。
2	生徒指導の意味と位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・前回出したレポートについて4名に発表してもらい、「良い先生とは」の意味を皆で考え、意見交換する。 1、部活での指導をよくしてくださった先生、2、進路や悩みで個人的に親身に相談に乗ってくださった先生、3、授業のうまい先生、4、学級を甦らせた先生、といったタイプが抽出される。 教師のこれらの指導力を、生徒指導の仕事と関連づけてみる。 ・「教員の主な仕事」（学習指導・特別活動・生徒指導・学校運営と担当校務分掌・研究と研修）を内容を含めて理解したうえで、 ・生徒指導の意味と定義を『生徒指導提要』（文科省）の説明から理解する。また、『学習指導要領』の記載内容からも生徒指導の仕事の意義を理解する。
3	生徒指導の意味の歴史の変遷 1	<p>生徒指導の意味と用語は、日本独自である。その歴史の変遷と意味の変遷を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 第1期 初等教育に始まる訓育としての生徒指導 「小学校生徒心得」（明治11年）、合わせて「小学校教員心得」（明治14年） 修身の授業が第一主要科目でもあり、命令と服従の関係で成り立った教育 2 第2期 中等教育における職業指導としての生徒指導 大正時代から昭和初期 「児童生徒ノ個性尊重及職業指導ニ関スル件」（昭和2年） 但し、訓育的生徒指導は併せて続行：「児童生徒ニ対スル校外生徒指導ニ関スル件」（昭和7年） <ul style="list-style-type: none"> ・戦後の占領下で、生徒指導がガイダンスとして普及したときの理念を学ぶ。 ・終戦直後の第一次少年非行の波の到来、第二次、第三次、そして第四次といわれる今日まで、少年の検挙数は減少しているが、問題行動の凶悪化がみられるようになった過程を捉える。 ・生徒指導に関わりある教育領域として、道徳教育の時間や総合的な学習の時間等との関係を理解する
4	生徒指導の意味の歴史の変遷 2	<ol style="list-style-type: none"> 3 第3期 戦後の生徒指導 ガイダンス、カウンセリングの導入 アメリカ型生徒指導の普及。『児童の理解と指導』『中学校・高等学校の生徒指導』（昭和24年）等で「生活指導」の用語登場。 他に、『山びこ学校』発刊で集団指導、集団づくりの教育実践が起こる。 4 第4期 凶悪化した問題行動・非行対策としての生徒指導 文部省『生徒指導の手引』（昭和40年） 5 第5期 いじめ、暴力、不登校の常態化における生徒指導期 地域全体の問題解決体制のしくみと生徒指導の刷新 文部科学省『生徒指導提要』（平成22年）発刊の背景について
5	生活綴り方運動からみた生活指導（生徒指導）	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困の中にある山村の生活を直視させる指導から起こった生活指導 ・児童生徒の自主的な生き方を開発した作文指導 ・社会の矛盾への目を開かせた教育実践運動
6	生徒指導の歴史の変遷の総括	<p>生徒指導の意味と構造の確認</p> <p>①訓育的心構え→②進路指導（中等教育）→③生活綴り方運動という生徒指導→④ガイダンス→⑤教育相談→⑥キャリア教育→⑦規範教育</p> <p>すなわち、1980年代以降の社会変化と児童生徒の問題行動・非行への対策と健全育成へ（予防・事件解決・事後指導）</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
7	子どもたちの問題行動と背景にある社会の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・学級崩壊から、いじめ、暴力、殺人、万引き、麻薬使用、不登校、引きこもり、長期欠席等の実態を、統計その他の資料を使って客観的に分析する。 ・社会の変化を考察する。 特に2000年以降、激化してきた変化は何かを調べる。 ①情報化や消費文化中心の生活、科学技術の高度発展とそれに反比例しての「こころの荒れ」 生産・労働から遠ざかりがちなニート、フリーター型の生き方にみられる先進国共通の社会的変化と子ども・青年への影響 ②少子化、母親の就業の一般化、祖父母との別居の一般化、近隣の大人たちの子どもたちへの子育てに無関心、虐待をする親、逆にモンスターペアレンツといわれる理不尽な親たちの出現と、親による学校や教師攻撃の増加など、日本の家族形態の変化と子どもへの影響
8	逸脱行動について先行学説から学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・フランスの社会学者デュルケムは、19世紀末に「犯罪」を研究し、「犯罪は時々社会にとって不可欠の機能を果たしている」と主張することで、犯罪というレッテルを張られる行為は必ずしも悪とはいえず、逸脱行為というものは、その社会の規範、考え方、慣習から外れただけの行為である場合があるために、犯罪には正常性も含まれるという考え方を提起し、科学的な社会病理学の先鞭をつけたこと。 ・1938年に、アメリカの社会学者ロバート・キング・マートンが、それまでのアメリカ社会病理学に対して、逸脱行動 (deviant behavior) という用語を定着させた論文「社会構造とアノミー (異常行動)」を発表し、その後のシカゴ学派などによる逸脱行動研究の流れを用意したこと。
9	『生徒指導提要』(文科学)を読み解き、活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・文科省が平成22年に刊行した『生徒指導提要』の発刊の意図を認識し、本書を手掛かりにして今日の児童生徒の問題行動の実態、それへの対応(予防、即時解決、事後指導、そして健全育成)へのあり方を体系的に学ぶ。 ・児童生徒の問題行動を統計値から認識する ・個別指導と集団指導の手法を学ぶ ・進路指導、教育相談、家庭・学校・地域・関係機関との連携協力の在り方を学ぶ <p>他に、国立教育政策研究所生徒指導センターの『生徒指導資料』全4冊や、月刊誌『生徒指導』『教職課程』(生徒指導の特集号)を活用して校内整備や多機関連携についての知識を深める。</p>
10	子どもの規範意識とその芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導とは、非行を予防し、発生したら対処するというだけでなく、子どもたちに規範意識を育むことを前提としている。 ・公共性や奉仕の精神は、どのような学習や活動から生まれ育つのであろうか。 「子どもは本来純粋で、善である」とは、フランスの18世紀の思想家、ルソーの見方でもあるが、社会がそうした環境を作り上げていないような場合にはそうした性向の自発的発生は期待できにくい点 学校のカリキュラム編成や諸領域を活用して、規範意識をめばえさせる日常的な教師の指導体制について考えてみる。
11	学校の「抱え込み」から開かれた「連携」へ	<p>近年の問題行動の背後には子供の意識と行動の質的変化が加わっており、子どもの心理面に関する専門的な判断の必要性が求められる。さらに、内容・程度が一定の限度を超える問題行動の発生など、学校だけでは対応できない新たな問題が増えてきている。</p> <p>したがって、学校には、学校内ですべての問題を解決しようとする「抱え込み」意識を捨て、周囲の人々や関係機関と協同して事態に当たる姿勢に転換することが文科省からも強く勧告されている。</p> <p>関係機関とは、教育委員会であったり、警察であったり、児童相談所であったり、市役所であったりする。学校が抱え込みをやめるといふ勧告は、平成10年から出され、問題行動への新たな対応となった。連携に関する関係資料をひも解きながら、この施策の先行例を学ぶ</p>
12	学校・家庭・地域の連携協力の推進	<p>児童生徒を非行・犯罪から守り、人として・社会人としての規範意識を身につけさせるためには、学校内だけの努力では十分ではなく、学校と関係機関との連携ということが重要である。学校は、子どもの問題を抱え込んで処理しようとして苦しんだり、事態を大きくさせてしまったりしないように、他の関係機関と連携し力を借りることが、事態の早期解決や再犯防止につながる。これについて、関係通達、教育支援活動促進事業等を確認し、さらに、「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」の具体的な取り組みを調べる。</p> <p>最後に、文部科学省の提唱する「地域の核としての学校」という新たな未来の学校像から、生徒指導の総合的意義を再確認する</p>
13	連携がかたちだけのものに終わらないために：実例研究	<ol style="list-style-type: none"> 1 大津市の中2いじめ自殺事件が教えること <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを見つめる目、教育委員会の指導姿勢 ・連携のシステムの形骸化を回避する ・学校と警察との連携協力システムから大津市の「あすなる」の組織化と落とし穴 ・教育委員会の機動性を見直す：教育委員会はどのように学校と密接な関係をとるか。横浜市の教育委員会の対応システムの事例に学ぶ。 2 担任とくに生徒指導主事の人間力と有り方、校長の生徒指導に対する姿勢 <ul style="list-style-type: none"> いじめを児童生徒から撤退させた教師の成功例に学ぶ。 ・担任の教育愛と人間性が教室でのいじめを一掃させた事例 ・暴力で荒れ果てていた中学校を一新させた新任校長の実践事例に学ぶ

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	子どもの「サインを見逃すな」	<p>問題行動に至らせない指導体制 問題はなぜ発生するのか→問題はどのように現れるか→ →児童生徒は何に悩んでいるのか→問題行動に潜む心理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒のストレスを知る ・ストレス反応にはどのようなものがあるか ・児童生徒のストレスに対応できる教員の指導にはどのようなものがあるか ・立ち直った生徒の事例
15	子どもの問題行動に対応する学校と地域社会・関連諸機関の連携	<p>最近の児童生徒の問題行動の背景と対応の事例研究 —変化した家庭・親の増加と実態のなかで、教師、学校の在り方を考える—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校内対応・学校内生徒指導の仕組みの研究：「生徒指導基本方針」の作成と共通理解 ・学校と地域の連携：地域の人材活用 ・学校と関係機関（教育委員会・警察・児童相談所等）との連携の仕組み <p>・総括に代えて：地域を挙げての問題行動防止の体制＜事例研究＞</p>

平成30年度

科目名	進路指導論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科 2年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 1単位 選択
担当教員	山本 裕詞		
開講期	後期		
授業概要	本授業では、キャリア教育・進路指導の基礎的な事項について中央教育審議会答申などを通して学んでいく。また義務教育段階、中等教育段階における実際の進路指導・キャリア教育について都道府県教育委員会の資料を基に学ぶものである。そのほかに、自分自身のキャリアプランについて考え、人間関係を円滑に進めるためのコミュニケーション能力および基礎的なマナーを培う。		
達成目標	①キャリア教育・進路指導の基礎的な事項について理解できたか。 ②進路指導の歴史について理解し、中央教育審議会が示したキャリア教育の新たな方向性を把握することができたか。 ④各教育段階におけるキャリア教育推進のポイントとその実例を挙げることができたか。		
受講資格	教職等に就くことを希望する者	成績評価 方法	試験（70%）、レポート（20%）、授業参画度（10%）
教科書	黒川雅子・山田知代編『生徒指導・進路指導』学事出版 2014年		
参考書	中学校キャリア教育の手引き（文部科学省）、高等学校キャリア教育の手引き（文部科学省）、このほか授業中に適宜紹介する。		
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。		
オフィスタイム	月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 木曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。		
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	1. 授業に関するガイダンス 2. 自身が受けてきたキャリア教育（進路指導）を振り返る
2	キャリア教育の変遷（1）	1. キャリア教育が求められている背景 2. キャリア教育推進の経緯とキャリア教育の定義 3. 教育法規からみるキャリア教育の位置付け 4. キャリア教育の実践をめぐる課題
3	キャリア教育の変遷（2）	1. 中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」
4	進学指導（1）	1. 進路開拓に必要な力—キャリア教育を通じて育成すべき力 2. 進路指導とキャリア教育 3. 進学指導の指導計画と課題
5	進路指導（2）	1. 志望校の決定プロセス 2. 学習塾や予備校との付き合い方
6	就職指導	1. 就職指導に関係する法律等 2. 就職指導の年間日程 3. 外部組織との連携
7	授業の確認テストと解説	1. 確認テスト 2. テストの解説
8	若者の雇用をめぐる問題	1. ニート・フリーター 2. 非正規雇用 3. ブラックバイト 4. 格差社会

科目名	教育相談論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科 2年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択
担当教員	堀 琴美		
開講期	後期		
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>教育相談は、児童・生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力をはぐくみ、個性の伸長や人格の形成を支援する教育活動です。児童・生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的過程を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの理論や技術）を身に付けていきます。授業では、グループディスカッションや実技的ワークショップで体験的に学ぶ方法と、理論を体系的に学ぶ方法を組み合わせていきますので、積極的に発言してしっかりと学んでください。</p>		
達成目標	<p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>教員として、カウンセリング・マインドを基礎とした教育・支援の理念を持ち、また児童生徒との信頼関係を築けるような関わり方がイメージできるようにする。</p> <p>【履修カルテの評価観点】</p> <p>①学校における教育相談の意義と理論を理解する。 ②教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリング・マインド等）を理解する。 ③教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。</p>		
受講資格	「教職課程」受講者	成績評価方法	期末試験または期末レポート（80%） 発言内容、発表内容、受講態度（20%）
教科書	「教師のための教育相談の基礎」久芳美恵子著 三省堂 2010年発行 1980円		
参考書	授業の中でテーマ別に提示する。		
学生への要望	教師をめざす学生、とは言え、どちらかという児童・生徒の気持ちのほうがよくわかる…そんな今だからこそ、（子どもとして自分が求めていた）支援者としての教師像を追求してもらいたいと思います。		
オフィスタイム	水曜日Ⅳ限、木曜日Ⅲ限、臨床心理学研究室		
自学自習	事前学習：テキストを読んで、わからない用語は調べておくこと 。グループで調査をする際には、テーマについてなるべく深く掘り下げ、テーマをよく絞り込んでいくこと。 事後学習：授業で出てきた重要キーワードは必ず覚え、参考文献を読んで補足をノートにまとめる。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業計画と目標、評価ポイント、授業ポリシーについてのガイダンス。「心に残るあの先生」を振り返るワークショップ。
2	教師が行う学校教育相談	子どもを取り巻く諸問題を俯瞰し、生徒指導と教育相談の関係と違いや、援助機能としての教育相談を学ぶ。
3	自己理解と他者理解Ⅰ	教師（相談を受ける側）が自分自身を知ることの重要性を理解し、エゴグラム等を使って自分の性格特性や対人特徴を自己分析する。
4	自己理解と他者理解Ⅱ	人格は多面的であり、人は様々な自我状態を使い分けて生きている。同じ行動でも置かれた状況によって解釈が変わることもある。子どもの問題行動の陰に隠れたSOSや心理的危機について、あるいは、教師が子どもの置かれた状況の理解することの重要性を学ぶ。
5	自己理解を他者理解Ⅲ	人はみな見方も感じ方も違う。それをわかっているつもりでも、つい、自分と同じ見方を他の人もしていると勘違いすることがある。教師が思い込みや偏見の陥穽にはまらないための視点を学習する。
6	カウンセリングの理論と技術（1）	「悩みを持つ」人は「孤独」。あなたは誰に悩みを打ち明けますか。本講では、安全な聞き手とは、こころを開くアプローチなどについて考える。
7	カウンセリングの理論と技術（2）	傾聴は何か。共感とは何か。気持ちを受け止める技術、相手の立場に立って考えることなどをテーマに体験的に学び、ディスカッションを行う。
8	カウンセリングの理論と技術（3）	ロジャーズの人間性カウンセリング理論を中心に、人間に対する基本的な信頼や、その人が本来もつ力を取り戻す（Empowerment）ための支援について学ぶ。
9	相談のプロセスと行動変容	カウンセリングのプロセスの中で、相談者の心に何が起こるのかを理論的に理解する。
10	子ども理解の基礎知識	著名な研究者による発達理論（エリクソン、ピアジェ、ハビィガースト）、マズローの欲求階層説を学ぶ。
11	子ども理解の基礎知識	発達障害（LD、ADHD、アスペルガー症候群など）をもつ子どもへの理解と支援の在り方について。
12	子ども理解の基礎知識	子どもを取り巻く今日の問題（いじめ、不登校、虐待、子どもの貧困など）の定義、統計、法制度、実態、報道記事、支援の在り方、教師として気を付けることなどについて学習し、議論する。
13	子ども理解の基礎知識	実際のケース（例えば児童虐待）が発生したとき、教師は誰に相談し、どのように動かなければならないのだろうか。ルポルターージュや授業用構成事例等を使って、組織的対応と関係機関連携の必要性和重要性を取り上げる。
14	教育相談の具体的進め方	守秘義務と組織内（関係機関連携の中での）情報共有、個人情報扱い方、学内外の専門家との連携、組織としての取り組みなど。
15	教育相談の具体的進め方	子どものやる気を引き出し、保護者の心に響くようなアプローチの仕方、資料作成、支援計画の作成などについて学ぶ。

科目名	教育実習Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 1単位 選択
担当教員	山本 裕詞		
開講期	通年		
授業概要	教育実習の意義、内容、方法、手続き、実習中の態度や配慮事項について学び、実習にスムーズに入れるようにするとともに、学生の身分のままでは生徒に対しては指導者となることの立場や責任の重さを理解する。教育実習終了後は、実習体験のまとめを発表し、同時に他の実習生の発表を聞くことで、問題点の整理と解決を図りながら、教師としての望ましい姿を追求していく下地を涵養する。		
達成目標	①実習生としての責任の重さを自覚できたか。 ②実習前の事前準備をすることができたか。 ③実際の指導場を想定した学習指導案が作成できたか。 ④実習体験をふり返り、他者に伝えることができたか。 ⑤自己と他者の反省から、目指すべき教師像が描けたか。		
受講資格	今年度「教育実習Ⅱ」への参加を認められた者	成績評価 方法	①事前指導で義務付けた提出物の内容 (30点) ②事後指導時に提出させるリフレクションシート (20点) ③実習反省の発表 (30点) ④最終レポート「教育実習を終えて - 私の課題 - 」 (1200字) (20点)
教科書	「教育実習－マニュアルと記録－」(本学様式)をもとにすすめ、必要に応じて参考資料を配布する。		
参考書	早稲田大学「教育実習マニュアル」第5版(東信堂)		
学生への要望	1. 学生個人では責任の負担能力に限界があることを強く意識し、「報告」「連絡」「相談」を徹底する。 2. 積極的・主体的に学ぶ姿勢と謙虚に指導を受容する姿勢との両立を図る心構えを形成して欲しい。 3. 教育実習の受入校(生徒と教師)に対して感謝し、その気持ちの表現についても真剣に考えて欲しい。		
オフィスタイム	月曜日限 (12:50~14:20) 木曜日限 (10:30~12:00) 場所: 教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。		
自学自習	事前学修: 当日の内容をテキストで確認しておくこと。教育問題の動向を知るために、新聞等をよく読んでおくこと。(30分) 事後学修: 授業を踏まえて、課題に取り組むこと。(30分)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション、事前指導1 (大学・短大合同)	・教育実習をするための必要手続き ・「教育実習Ⅰ」の授業計画、評価方法、各自の実習予定と指導時間の調整 ・教育実習の目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守 ・実習に臨むにあたっての不安と期待 (小レポート)
2	事前指導2 (大学・短大合同)	・教育実習日誌の書き方 ・評価と指導の一体化について ・実習に臨むにあたっての不安と期待 (小レポート) を読んで
3	事前指導3 (大学・短大合同)	・教育実習の不安克服に向けての具体的な事前準備その① ・礼儀作法、スピーチの練習 ・学級活動の指導 (ホームルーム) ・特別活動の指導 (各種学校行事)
4	事前指導4 (大学・短大合同)	・教育実習の不安克服に向けての具体的な事前準備その② ・教科の指導 (板書、教具の活用など) ・御礼状の書き方
5	事前指導5	・模擬授業 (大学・短大合同) ・教科指導案 (細案) の個別指導 ・道徳指導案の個別指導 (短大)
6	事前指導6	・模擬授業 (大学・短大合同) ・教科指導案 (細案) の個別指導 ・道徳指導案の個別指導 (短大)
7	事前指導7	・模擬授業 (大学・短大合同) ・教科指導案 (細案) の個別指導 ・道徳指導案の個別指導 (短大)
8	事前指導8	・模擬授業 (大学・短大合同) ・教科指導案 (細案) の個別指導 ・道徳指導案の個別指導 (短大)

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	事前指導9	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業（大学・短大合同） ・教科指導案（細案）の個別指導 ・道徳指導案の個別指導（短大）
10	事前指導10	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業（大学・短大合同） ・教科指導案（細案）の個別指導 ・道徳指導案の個別指導（短大）
11	事前指導11	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業（大学・短大合同） ・指導案（細案）の個別指導 ・道徳指導案の個別指導（短大）
12	事前指導12	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業（大学・短大合同） ・指導案（細案）の個別指導 ・道徳指導案の個別指導（短大）
13	事後指導 1	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習体験の発表 ・他者評価と自己反省 ・リフレクションシートの提出
14	事後指導 2	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習体験の発表 ・他者評価と自己反省 ・リフレクションシートの提出
15	事後指導 3	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習体験の発表 ・他者評価と自己反省 ・まとめ

科目名	教育実習Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 選択
担当教員	山本 裕詞		
開講期	前期		
授業概要	教育実習の目的である以下の4点を踏まえ、日頃の学びの成果および教育実習事前指導で得たことを基に、「教師としての資質」を高めるために現場実習を行うことを目指す。 1. 大学で学んだことを、教える立場に立って実践的に検証すること。 2. 教師のあり方や職務・使命などを、体験的に理解すること。 3. 学校の実情や生徒の実態を把握し、それらへの具体的対応や心構えを知ること。 4. 自己の教職適性や教職志望を確認すること。		
達成目標	①教材研究を入念に行い、計画した指導案を実践できたか。 ②実習生としての身分をわきまえながら体験することで、教員としての服務基準の遵守を理解できたか。 ③教育実習日誌への簡潔で的確な記述ができたか。 ④学校の実情や生徒の実態、課題を把握することができ、その対処について指導教諭から具体的な対応策を学ぶことができたか。 ⑤実習校の先生方や生徒とのふれあいをとおして教職への志望が一層高まったか。		
受講資格	今年度「教育実習Ⅱ」への参加を認められた者	成績評価 方法	実習校からの評価と実習記録および実習への取り組みの総合点(100点)とする。
教科書	教育実習 マニュアルと記録		
参考書	事前指導の際に連絡する。		
学生への要望	教育実習生としての心構えを理解し、実践できるように事前準備をしっかり行うこと。 受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で臨んで欲しい。		
オフィスタイム	月曜Ⅲ限(12:50~14:20) 木曜Ⅱ限(10:30~12:00) 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。		
自学自習	事前学修：当日の実習内容をよく確認しておくこと。(60分) 事後学修：その日の実習を踏まえて、授業準備や課題に取り組むこと。(60分)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	1. 教育実習の目的 2. 教育実習の心構え 3. 教育実習のための準備
2	オリエンテーション	1. 実習日誌の書き方 2. 法令上の注意 3. 実習前打ち合わせ記録
3	現場実習	実習校での現場実習
4	現場実習	実習校での現場実習
5	現場実習	実習校での現場実習
6	現場実習	実習校での現場実習
7	現場実習	実習校での現場実習
8	現場実習	実習校での現場実習
9	現場実習	実習校での現場実習
10	現場実習	実習校での現場実習
11	現場実習	実習校での現場実習
12	現場実習	実習校での現場実習
13	現場実習	実習校での現場実習
14	現場実習	実習校での現場実習
15	教育実習成果報告会	1. 教育実習での成果 2. 教育実習で発見した課題と解決

科目名	教職実践演習（中・高）		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 2単位 選択
担当教員	菊池 節子			
開講期	後期			
授業概要	授業の概要 本演習では、以下の4事項を踏まえて授業を行う。教員として必要な資質や知識および技能の再確認を行うとともに、自己分析を通して不足している部分の補完を目指し、教員として備えるべき資質のさらなる向上を目指す。			
達成目標	1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 ①教育現場の現状を再確認し、教師の使命と役割を理解できたか。 2. 社会性や対人関係能力に関する事項 ②生徒および教職員との人間関係を円滑に進めるためのコミュニケーション能力を培うことができたか。 3. 児童生徒理解や学級経営等に関する事項 ③現在の学校における生徒指導上の課題を理解し、「生徒1人ひとりへ個別に対応できる能力」と「学級集団を育成する能力」を培う。とともに「特別支援教育の現状」や「発達障害児」への指導・援助について理解できたか。 4. 教科の指導力に関する事項 ④中学校の音楽、美術、家庭科、高等学校の家庭科の教科指導を十分に遂行できる知識と技術を再確認するとともに、各自が幅広い視野で学びを深め、専門性を高めることができたか。			
受講資格	教育実習Ⅰ・Ⅱを履修していること	成績評価 方法	外部講師の講演を受けてのレポート（担当 佐久間）：10点×2回＝20点 「教科の指導力」（担当 難波・磯部・黒沼）：30点 「特別支援教育」（担当 佐久間）：10点 「附属高校の訪問報告書」（担当 佐久間）：10点 「コミュニケーション」（担当 折笠）：20点 「まとめ」の領域における評価（担当 佐久間）：10点	
教科書	授業の際に、配布する「教職実践演習ノート」			
参考書	授業の際に、各担当教員より配布される。			
学生への要望	受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。			
オフィスタイム	月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 木曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと。教育問題の動向を知るために、新聞等をよく読んでおくこと。（60分） 事後学習：授業を踏まえて、課題に取り組むこと。（60分）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	①履修カルテの整理をすすめながら、これまでの教職課程における学びを振り返る。 ②本科目の目的、授業計画、評価方法について説明して、授業に対する心構えを作る。 ③模擬授業の実施方法の説明 担当：佐久間邦友
2	気になる子の理解と対応について	ゲストスピーカーによる講演 担当：ゲストスピーカー（佐久間邦友）
3	福島県における教育の現状・課題としての教師の役割	福島県教育庁関係者による講演 担当：福島県教育庁関係者（佐久間邦友）
4	「特別支援教育」の現状と課題	福島県内特別支援学校教員による講演 担当：ゲストスピーカー2名（佐久間邦友）
5	附属高校訪問と講話	附属高等学校を訪問し、講話をいただく。 担当：ゲストスピーカー2名（佐久間邦友）
6	児童・生徒・保護者との円滑なコミュニケーションの方法について	円滑なコミュニケーションの方法について学修する。 担当：折笠国康
7	児童・生徒・保護者との円滑なコミュニケーションの方法について	円滑なコミュニケーションの方法について学修する。 担当：折笠国康
8	（音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同）研究授業指導案の改善と発表①～家庭科～	家庭科の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：難波めぐみ 佐久間邦友

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 研究授業指導案の改善と発表② ～家庭科～	家庭科の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：難波めぐみ 佐久間邦友
10	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 模擬授業の発表と改善のための話し合い① ～栄養教諭～	栄養教諭の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：菊池節子 佐久間邦友
11	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 模擬授業の発表と改善のための話し合い② ～栄養教諭～	栄養教諭の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：菊池節子 佐久間邦友
12	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 模擬授業の発表と改善のための話し合い③ ～栄養教諭～	栄養教諭の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：菊池節子 佐久間邦友
13	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 教科の専門技能の発表と改善のための話し合い① ～美術～	美術の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：黒沼令 佐久間邦友
14	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 教科の専門技能の発表と改善のための話し合い① ～音楽～	音楽の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：磯部哲夫 佐久間邦友
15	まとめ	授業の総括を行う。 当初の目標と現在の課題を確認し、自己評価と反省を行い、レポートを提出し履修カルテを完成させる。 担当：佐久間邦友

平成30年度

科目名	教職キャリアデザイン I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択	
担当教員	山本 裕詞			
開講期	後期			
授業概要	教職キャリアデザイン Iは、建学の精神に則り、教員としてのキャリア形成を目指す学生を対象にした科目である。本科目は、教職に就くために何をどう努力したらよいか、その具体的な方途を得ることを目標としている。講義の内容は、教職教養関連の科目、専門科目、小論文、集団討論等から成る。また、12月に模擬試験（教職教養）の受験体験を組み入れ、教員としてのキャリア形成の一助となるようにはかっている。本科目の受講を手がかりにして教職へのキャリアを築くことができるよう、積極的に勉学に励むことを期待する。			
達成目標	①教員としてのキャリア形成を構築することができたか。 ②教員採用選考に向けて自己の実力を認識することができたか。			
受講資格	原則として、本学教職課程履修者の内、大学3年生、短大1年生、卒業生を対象とする。	成績評価 方法	平常点による「認」評価	
教科書	特に指定はない。毎回、各担当教員が資料等を配布する。			
参考書	『教育小六法』（最新版） 志望校種の『学習指導要領』			
学生への要望	採用試験は、各都道府県によってさまざまであるため、各自の自主的な勉学が必要である。本科目の受講が勉学の指針となるように、授業への積極的な参加を望む。 常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
オフィスタイム	月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 木曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業内容、自学の仕方、教員採用試験に関する説明を聞く。志望都道府県調査表を記入する。 担当：山本
2	教育原理	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：山本
3	教育法規	過去問を解くことを通して、出題の傾向を知る。 担当：山本
4	教科別指導①	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池
5	教科別指導②	各専門教科について、基礎的な知識を身につける。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、
6	教科別指導③	各専門教科について、基礎的な知識の理解を深める。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、
7	特別支援教育	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：山本
8	教育心理	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：山本
9	教育時事	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：山本
10	模擬試験	模擬試験の受験体験をする。 担当：山本
11	模試フォローアップ	模擬試験を振り返るとともに、克服すべき点を確かめる。 担当：山本
12	小論文	論理的に文章をまとめ上げる基本を知り、添削を受ける。 担当：関川
13	個人面接	教職をなぜ目指すのか。面談の体験を通して教職への意識を高める。 担当：山本
14	集団討論	グループで結論を導き出す体験を通して、討議とは何かを知る。 担当：山本
15	採用試験の申込について	採用試験の手続き、提出書類について知る。 担当：山本

科目名	教職キャリアデザインⅡ		
担当教員	山本 裕詞, 関川 悦雄, 小林 徹, 難波 めぐみ, 菊池 節子, 折笠 国康, 亀田 明美, 富士盛 公年	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択
開講期	前期		
授業概要	教職キャリアデザインⅡは、建学の精神に則り、教員としてのキャリア形成を目指す学生を対象にした科目である。本科目は、実践的な力をつけることをねらいとしている。講義は、教職教養関連の科目、専門科目、小論文、集団討議等から成る。また、4、5月に行われる模擬試験（教職教養）の受験をとおして、自己の実力を知り、キャリア形成の一助となるようにした。本科目の受講をとおして、これまでの勉学がより一層促進されることを期待する。		
達成目標	①教員としてのキャリア形成を構築することができたか。 ②教員採用選考に向けて自己の実力を認識することができたか。		
受講資格	原則として、本学教職課程履修者の内、大学4年生、短大2年生、卒業生を対象とする。	成績評価 方法	平常点により「認」評価。
教科書	特に指定はしない。毎回、担当教員が適宜資料を配付する。		
参考書	『教育小六法』（最新版） 志望校種の『学習指導要領』		
学生への要望	本科目の受講をとおして各自の勉学の指針となるよう積極的に受講されることを希む。		
オフィスタイム	月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 木曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。		
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業内容の説明を聴く。教員採用の現状を知り、個別相談を受ける。 教職教養に関する出題想定問題を解き、自己の現状を知る。 担当：山本
2	面接と討論（入門編）	採用試験対策としての面接、討論の在り方の基礎を学ぶ。 個人面接、集団面接、討論について体験的に学ぶ。 担当：山本
3	小論文（入門編）	「小論文のポイント」を踏まえ、与えられたテーマをmとに、小論文を書いてみる。 担当：山本
4	小論文（応用編）	前時に書いた小論文に関し、評価を受ける。 自己の教育に対する考えを、論理的にまとめる練習をする。 担当：関川
5	特別支援教育	過去問を解くことをとおして、知識の理解を深め、実力の向上を図る。 担当：山本
6	教育原理	過去問を解くことをとおして、知識の理解を深め、実力の向上を図る。主として、教育思想、教育史。 担当：関川
7	教育法規	過去問を解くことをとおして、知識の理解を深め、実力の向上を図る。 担当：山本
8	場面指導（入門編）	採用試験における場面指導の在り方を知り、自己の指導観を確認する。 担当：山本
9	教科別指導①	各専門教科において、現在、教育現場でなされている実践やカリキュラム等について幅広い知識を身につける。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池
10	教科別指導③	各専門教科において、現在、教育現場でなされている実践やカリキュラム等について知識を深める。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池
11	教科別指導③	各専門教科において、現在、教育現場でなされている実践やカリキュラム等について、これまで得た知識の理解をさらに深め、実力の向上を図る。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池
12	場面指導（応用編）	既に学んだ場面指導に関する基礎的理解をもとに、採用試験を想定した場面指導について、体験的な学びを通して、さらに理解を深め、具体的に対応できる力を身につける。 担当：山本
13	個人面接	自己をPRする力をつけるとともに、採用試験に対応できる面接スキルが身につけていることを確認し、教職への意識をさらに高める。 担当：折笠、亀田、富士盛

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	集団討論	グループで教育に関する課題について、ある結論を導き出す体験をとおして、他者と討議する力を高める。 担当：折笠、亀田、富士盛
15	教育時事	現在、教育現場で話題となっていることを知り、文部科学省の方針の理解を深める。 担当：山本